

平成 29 年 10 月 27 日

## 名古屋大学東山キャンパスにおける土壌等の調査結果について

このたび、本学の東山キャンパス構内 PCB（ポリ塩化ビフェニル）廃棄物屋外保管場所周辺の土壌等（土壌及び地下水の特定化学物質）の調査を実施した結果、土壌の一部から PCB が検出されましたので、市民の健康と安全を確保する環境の保全に関する条例（名古屋市環境保全条例）に基づき、本日、名古屋市に報告書を提出しました。この調査結果等についてお知らせいたします。

## 1. 土壌等の調査結果について

調査の結果、PCB 廃棄物屋外保管場所内の土壌 1 箇所から PCB が検出されました。濃度等は、以下のとおりです。

検出物質	検出濃度（検出場所）	指定基準
PCB （土壌溶出量）	0.28 mg/L （PCB 廃棄物屋外保管場所）	検出されないこと

汚染場所は、別添図面のとおりです。

## 2. 経緯

名古屋大学では、使用を中止した大型変圧器など、低濃度の PCB を含んだ絶縁油を含有した廃棄物の一部をフェンスで囲われた屋外の管理区域内で保管していますが、このうちの 1 台（旧特別高圧変圧器）からごくわずかな油漏れを発見しました。直ちに漏えい箇所の特定を行い、漏えいの拡散を防止するための応急措置を講じるとともに、環境への影響を確認するため、保管場所からの排水経路上の水及び保管場所内の土壌を採取し分析を行ったところ、コンクリート製基礎近傍の 1 箇所の土壌から PCB が検出されました。土壌汚染範囲は非常に限定的で、当該場所以外の周辺の土壌からは PCB は検出されませんでした。

以上の経緯について名古屋市環境局への報告を行い、拡散を防ぐため、保管場所内の全ての土壌部分をシートで覆う措置を講じるとともに、学内地下水についても水質分析調査を実施し、影響がないことを確認しています。

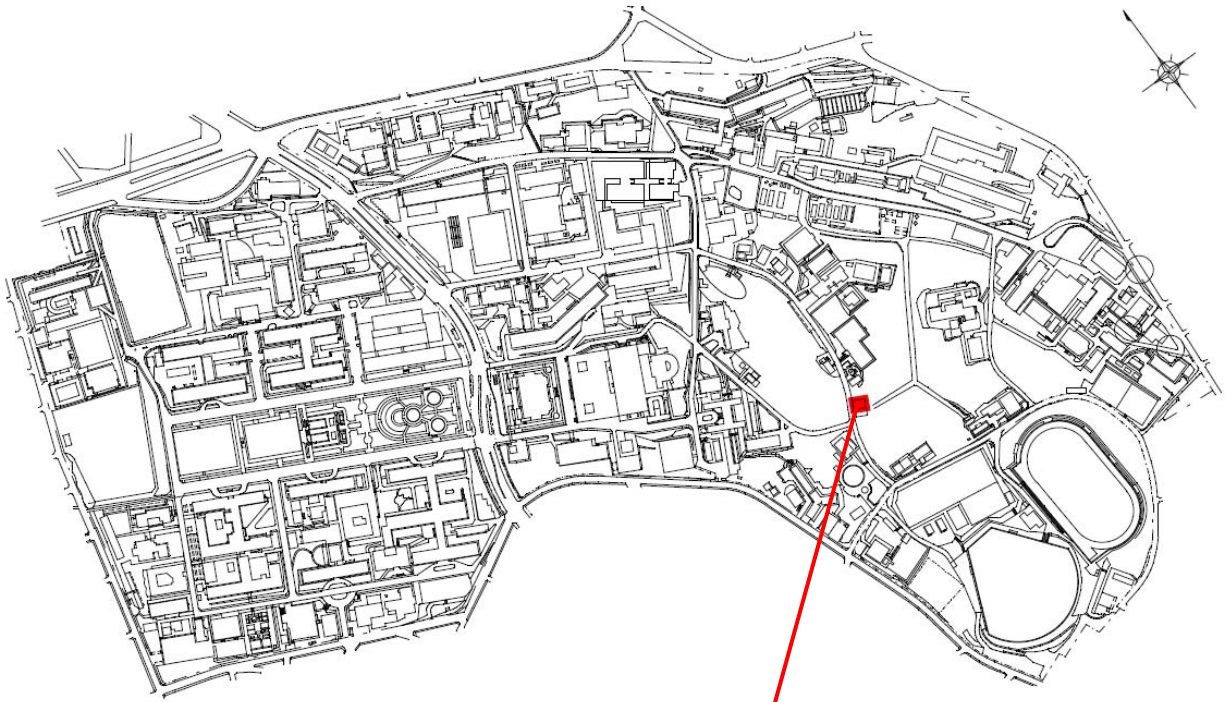
また、漏えいした廃棄物内の絶縁油はすべて抜き取り適正に処分しましたので、今後当該廃棄物からの漏えいはありません。

## 3. 今後の対応

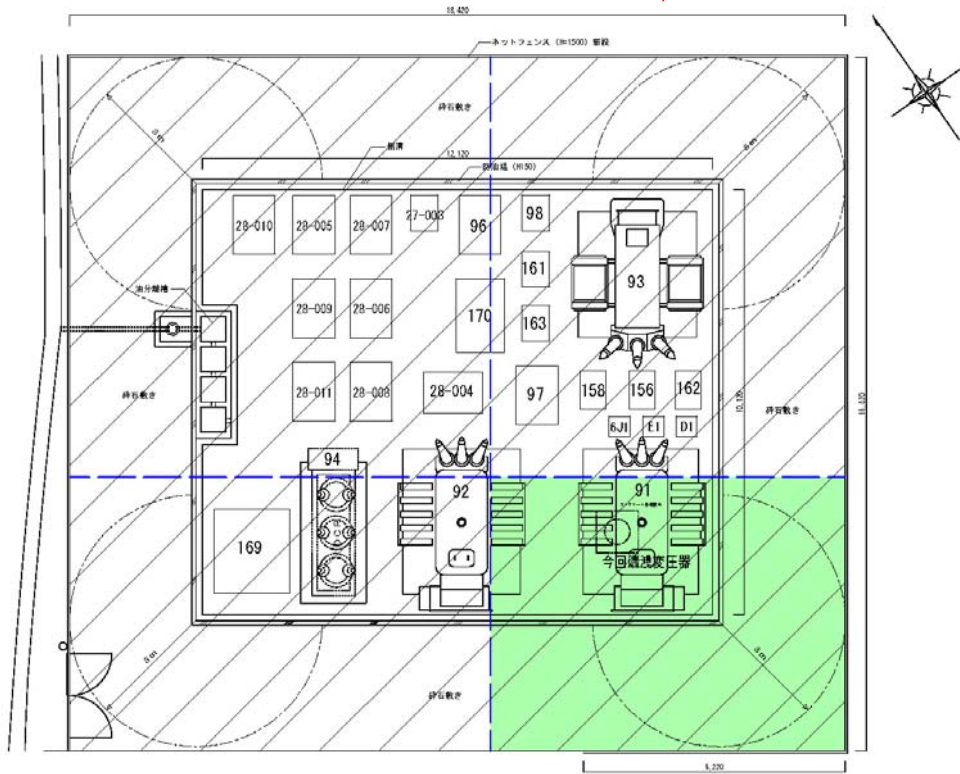
今後は、同様の事故の発生の未然防止のため、屋外で保管中のその他の PCB 含有廃棄物内の油についても全て抜き取り処分することとし、現在作業を進めています。また、汚染された土壌については、適切に処理を行う予定としております。



本件に対する問い合わせ先

名古屋大学施設管理部施設管理課長 白井 隆司 TEL：052-789-2135



東山キャンパス配置図



-  土壌調査範囲
-  PCB検出範囲

PCB廃棄物屋外保管場所